

全日本学生バドミントン連盟会員各位

【令和5年度第11回全日本学生ミックスダブルス選手権大会組み合わせについて】

日頃から全日本学連の活動にご協力を頂きありがとうございます。

去る7月15～16日に上記大会の組み合わせ会議を開催いたしました。その際、関西学連所属大学2組と中四国学連所属大学2組について、要項記載の参加申し込み手続きに関する以下のような瑕疵のあることが会議前日に全日本学連の指摘により判明いたしました。

- (1) 異なる大学間ペアで一方の大学所属選手の申込手続きに不備があった事。
- (2) 参加者の申込書類及びデータを集約する関西学連及び中四国学連は各申込手続き内容の整合性を確認しなかった事。
- (3) 主管学連である関西学連は(2)の未確認に加えて、各地区学連から集約された各申込手続き内容の整合性をも確認しなかった事。

上記大会は1種大会であるため、申込手続きには各選手が都道府県協会会長印を押印した書類の提出が必須の参加条件であり、更にはペアの両方がそれぞれに申し込み手続きをする事は要項参加申し込み書類に記載の通りです。申込締切期日までにこの条件が全て整っていない場合は要項に記載されている通り棄権扱いとなります。

今回の事案についてレフェリーと協議の結果、本来であれば該当する4組は棄権扱いとなるところですが、主たる原因は参加申込手続きの整合性確認を怠った関西学連と中四国学連にあり、4組のうち正式な申込手続きを行った他方の選手に関しては棄権扱いにする瑕疵は認められないと判断し、関西学連会長及び中四国学連会長には会長の責務として当該選手及び監督に嚴重注意を伝達する事、更に始末書の提出をもって、本事案を今後の前例としない特例として4組とも参加を認めることにしました。尚、本事案について(公財)日本バドミントン協会へのレフェリーからの報告の結果、当該学連及び当該チームに嚴重注意を行った上で今回の判断を可とするとの回答を得ております。

人間は誰でもミスはするものですが、ミスを防ぐために最善の努力をすることは必要です。各地区学連会長は担当学連の全ての業務を熟知・掌握していなければならない事は当然であり、本事案のようなミスを防止するためには時として学生委員を指導する能力と責務が求められます。

この観点からも、本事案を看過すれば、今後の1種大会の要項に記載される内容が全て反故同然になり意味をなさない事態を招く恐れがあります。今後は絶対に同じ轍を踏まないようにするため、(公財)日本バドミントン協会の意を踏まえ、敢えて今回の事案を公表して再発防止に向けて厳に注意喚起をいたします。

全日本学生バドミントン連盟

会 長 北見正伸